

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	エスポワールこじか		
○保護者評価実施期間	2024年 9月 9日		2024年 9月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	50人	(回答者数) 49人
○従業者評価実施期間	2024年 10月 1日		2024年 10月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数) 8人
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 12月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっており、また、事業所の設備等は、障害や子どもの特性に応じ、バリアフリー化や子どもが個別の部屋で場所を提供している。	手作りで補助する物を準備し、各々の子どもにあった物を安全安心な物として使用できるよう工夫している	さらに安全面を重視し、今ある衝立やカーテンでの仕切りを作成し、個別に対応できるよう取組めます
2	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、支援計画に基づいて実施している。支援終了後には、必ず職員間でその日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点を共有する。	家庭生活が安心、安全に過ごしやすいための計画や子育てに生かせる支援の計画を立て個別活動と集団活動の取り組みを実施する。療育終了後、反省会振り返りを毎回実施している。そして、保護者からの情報を共有している。	さらに支援、活動終了後の振り返りを継続し、支援内容についても充実できるように取組めます そして、目標に関して、活動となる支援経過表を作成し、取組めます
3	地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携し、支援を行う体制を整えている。	地域の保健師、心理士や医師とのカンファレンスを定期に実施している	さらに関係機関との連携を強化するため体制を構築して継続していきます

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援プログラム作成が不十分である	公表していくことに慣れていないため、今後プログラムの内容の学習の機会を設ける	サービスの質のさらなる向上を図るために目的や特性を踏まえつつよりプロセスの視点に基づく評価を充実させていきます
2	地域の中で他の子どもや地域の方との交流や活動する機会が少ない	子ども園に在籍しながら、週1回だけ療育を利用されているため交流できる機会が少ない、具体的な活動計画ができていない。家族が、他の子ども園と交流することに対して抵抗されている。地域住民を招待する機会が少ない。	地域の情報や他の子ども園と交流できるよう活動計画を立てる。交流や活動することに関して目的、内容を家族に説明をする
3			